

新発田市 平成 29 年度 第 3 回定例記者会見

1 日 時 平成 29 年 6 月 2 日（金）午前 11 時～

2 場 所 ヨリネスしばた 501 会議室

3 内 容

- 国際食品見本市「FOOD TAIPEI 2017」への出展
- 諏訪神社神輿 2 基を市指定文化財に指定
- 「潟コン×Komachi 婚活サークル」
- 落谷虹児記念館「開館 30 周年記念特別展」
- 「しばたあやめまつり」
- 「あやめ茶会」
- 札の辻広場のイベント「きたかん EXPO2017 ～ザイゴの魅力～」
- 札の辻広場のイベント「謎とき財宝探索ウォーク 城下まちクエスト」
- 園児がグリーンカーテンの苗植えを行います
- 市島邸企画展「お姫様がやって来た!! ～豪農と華族の結婚式～」
- 藤塚浜海水浴場海開き安全祈願祭
- 「手工芸・水墨画展、いきいき作品展合同展」
- 「ライトミュージックコンサート 2017」
- 「市民コンサート 2017」
- 「八神純子コンサートツアー2017」
- 中学生を対象とした「被爆体験者講演会」
- イクネスしばた開館 1 周年記念講演会

あいさつ

- 5 月 21 日に「新庁舎開庁・市制施行 70 周年記念式典」を執り行いました。
- 第一部の式典、第二部とも、市民の皆様から「よかった」という声をいただき、非常にうれしく思っているところです。
- 取り分け、当市出身のたかたかし先生には、非常に素晴らしい市歌を作ってください、市民の皆様からも好評をいただきました。
- これからの 100 年に向けて頑張ろうというスタートラインに相応しい市歌ができたと思っています。

- 当記者クラブからも、おおぜいの記者の皆様取材に来ていただき、本当にありがとうございました。
- これを機に、新発田市がより飛躍できるよう、その先頭に立っていきたいと、改めて決意を固めたところです。

それでは、会見項目の説明とします。

最初に、「FOOD TAIPEI（フード台北）」への出展について

- 6月21日（水）から24日（土）まで、台湾の台北市で開催される国際食品見本市「フード台北」に、当市をはじめとする阿賀北地域の物産品を出品します。
- これは、新発田版 DMO 事業の一環として参加するもので、当市からは大福やパン、日本酒、コシヒカリなどを出品します。
- 「フード台北」は、内外から約1,100社が出展する台湾最大の国際見本市で、100を超える国と地域から約7,000人ものバイヤーが集まると聞いています。
- 昨年も台湾で行われた「日本物産展」に出展し、たいへん好評を得たところですが、当市の物産品の海外輸出をさらに一歩推し進めるため、商談成立を目指して大いにPRするよう要請しました。
- 今後も継続的に輸出促進に取り組み、海外での当市の知名度向上を図ることで、インバウンド誘客との相乗効果が生れることを期待しています。

次に、市の文化財指定について

- 市教育委員会では、新発田市文化財調査審議会の答申を受け、このたび、諏訪神社の神輿^{みこし}2基を市指定有形文化財として指定しました。
- 一つは「諏訪大神の神輿」で、諏訪神社創建の際に、社殿とともに造られたと伝えられています。運行の際には振動とともに胴部全体が揺れる構造で、精緻な彫刻などの装飾が施された、貴重な工芸品であることが評価されたものです。

- もう一つは「溝口大祖神神輿」で、諏訪神社に祀られている新発田藩初代藩主・溝口秀勝侯の神格を担ぐための神輿です。明治時代に、「諏訪大神おおかみの神輿」を採寸して造られたもので、当時の職人の技術力の高さを現在に伝える貴重な工芸品であることが評価されました。
- 神輿が文化財として指定されるのは、当市では初めてです。両神輿とも、諏訪神社の祭礼、すなわち「新発田まつり」で運行されています。新発田台輪と併せて、この2つの神輿にも注目していただきたいと思います。

次に、「婚活サークル」の取組について

- 今年度の婚活支援事業は、婚活セミナーとイベントを組み合わせた「婚活サークル」という新しいスタイルで取り組むこととしており、その第1弾の参加者を6月5日（月）から募集します。
- 「婚活サークル」は、単発の「出会いイベント」ではなく、2回のセミナーとイベントに一連で参加していただき、サークル活動を楽しむような感覚で、親交を深めていただくことを想定しています。
- 県内で多くの婚活イベントを手掛ける「潟コン」と「新潟Komachiこまち」が全面的にサポートすることとしており、成婚率の向上に結び付くことを期待しています。
- また、今年度の婚活支援事業は「定住自立圏事業」として、胎内市・聖籠町との共催で取り組みます。
- 市町村の枠組みを超えて婚活支援に取り組むのは県内初であり、圏域全体の共通課題の解決に向けた、一つのモデルケースになればと考えています。
- 今回募集する新発田会場を皮切りに、順次会場を移しながら、各市町の特徴ある「婚活サークル」を毎月1回、合計6回開催する予定です。ぜひ、多くの若者に参加していただきたいと思っています。

次に、観光関係の情報を2つ紹介します

- 1つ目は、今年開館30周年を迎える落谷虹児記念館の特別展です。
- 開館記念日に当たる7月1日（土）から10月22日（日）まで、新発田では初公開となるパリ時代の作品をはじめ、新たに発見された挿絵の原画など、普段は見ることのできない特別な展示を行います。
- また、7月7日（土）は、七夕にちなんで「ナイトミュージアム」と称して、開館時間を延長するほか、カップルか浴衣で来場された方は入館料が無料になります。
- 夜の記念館で、より一層ロマンチックな雰囲気を楽しんでいただくとともに、改めて本市が誇る抒情画家・落谷虹児の魅力に触れていただきたいと思っています。
- 2つ目は、6月9日（金）から30日（金）まで行われる、恒例の「しばたあやめまつり」です。
- 梅、レンギョウ、桜と続いた新発田の「花のリレー」も、いよいよ市の花アヤメの季節を迎えました。今年も、五十公野公園のあやめ園では、約300品種60万本のアヤメが咲き競います。
- 期間中、イベント会場では、物産販売やステージイベントが行われるほか、市内の割烹9店舗が「あやめ城^{じょう}会席弁当」を提供する「あやめおごっつおう祭り」や、「あやめ茶会」などの関連イベントも開催されます。
- ぜひ、この機会に多くの方に自慢のアヤメを楽しんでいただきたいと思っています。

次に、「札の辻広場」でのイベントを2つ紹介します

- 1つ目は、「きたかん産業^{エキスポ}EXPO2017 ～ザイゴの魅力発見～」です。
- これは、豊浦、紫雲寺、加治川、聖籠町の各商工会青年部の主催で、所属する事業所の製品の展示・販売を通じて、地元の魅力を発信しようというものです。

- 当日は、各ブースでの商談や求人情報の提供も行われるほか、自動車や宿泊券などが出品されるオークションなど、ユニークな企画も予定されています。
- 2つ目は、「謎とき財宝探索ウォーク 城下まちクエスト」です。
- これは、参加者がスマートフォンのアプリを利用して、中心市街地の各所で出題される謎を解きながら、ポイントを集めて回るウォークラリーです。
- 参加者が中心市街地を歩くことで、まちの賑わいにつながることに加え、出題される謎が新発田に関するクイズになっており、楽しみながらの城下町の歴史や魅力を知ることができます。
- いずれも、イベントを通じて、地域の魅力を再発見してもらおうという取組です。ぜひ、多くの方に参加していただきたいと思います。

このほかの情報としては、園児がゴーヤの苗を植える、今年最初の「グリーンカーテンプロジェクト」のイベントや、豪農と華族^{かぞく}の結婚にスポットを当てた市島邸の企画展、県内一早い藤塚浜海水浴場の海開き、今年初めて合同展として開催する「手工芸・水墨画展、いきいき作品展」があります。

また、市民文化会館では、「ライトミュージックコンサート」、「市民コンサート」、「八神純子コンサート」と3週連続で魅力的なコンサートが開催されます。

さらに、恒例となっている中学生を対象とした「被爆体験者講演会」のほか、7月に1周年を迎えるイクネスしばたの記念講演会があります。

ぜひ、1つでも多く記事に取り上げていただき、新発田市を盛り上げていただきたいと思います。

定例記者会見質疑応答概要

「FOOD TAIPEI（フード台北）」への出展について

新潟日報 何年前から出展しているのか。

市長 昨年、初めて出展したのは「フード台北」ではなく、台北駅で行われた日本の観光物産展で、最も人気を博したのが新発田市のブースだった。そこで充分やっていけるといふ自信をつけ、その秋にはデパートでも出展した。新発田だけでは品数も十分ではないので、今回は DMO 事業で当市が中心となって、阿賀北の物産を持っていこうということで声をかけたところ、各市町村から自慢の品物を出していただき、村上市の観光協会にもお手伝いいただくこととなった。阿賀北が一つになって、台北で頑張ろうと思っている。

新潟日報 先月、新発田観光協会が、DMO 候補法人として登録されたが、改めてどのような事業を展開したいと考えているか。

市長 「人のインバウンド、物のアウトバウンド」をメインと考えている。当市は、新潟空港が近いというのが利点でもあり、反面デメリットでもある。例えば、月岡温泉に泊まり、次にゴールデンルートに行こうとすると、移動で1日潰れてしまう。その点、湯沢町などは中間地点にあるので、コストも安くなる。そうしたメリット、デメリットがある。空港から近いということのほかに、近隣の市町村も合わせると、12のゴルフ場があるというメリットもある。先般、韓国へ行って、これをパッケージにした商品売り込んだところ、さっそく予約が入ってきたと聞いているので、順調にインバウンドは進んでいる。もう一方の「物のアウトバウンド」では、昨年、コシヒカリを台湾へ輸出することに成功し、一定の道筋ができた。今年も台湾に輸出し、秋にはコンビニエンスストアで新発田産のコシヒカリが売られることとなる。DMO については、近隣の市町村とは、まだまだ温度差があると感じているが、成功事例を一つひとつ作っていくことによって、下越一帯、阿賀北一帯もそういう意識になっていただけるのではないかと。一気にいこうというよりは、

まず先に立ってやっていくことが、地域全体の DMO 事業につながるかと考えている。

まち交大賞「まちづくりシナリオ賞」受賞について

北陸工業 都市再生に関する素晴らしい取組ということで受賞したが、どう思うか。

市長 イクネスしばたを含め、モデルになるのではないかと考えていた。「官」と「民」と「学」も入った、めったにない取組である。国にはコンパクトシティを目指す上で、望んでいた事業だと褒めていただいたこともあり、今回、それが形になって表れたということであたいへんうれしい。

ふるさと納税について

新潟日報 総務省から見直しが必要とされている件で、先月の会見では他自治体と意見交換して検討したいとのことだったが、その後の見直しについての考えを聞きたい。

市長 担当課長に他市の状況について調査するよう指示し、群馬県の自治体などと調整を図った。他市の皆さんも、常識的と言われれば3割ではないかという声が多かったということなので、その辺りを中心にもう一度考え直したいと思っている。まだ決定していないが、他市の状況を調査した段階では、そのような雰囲気だったということなので、あまり華美になってはいけないだろうし、国の意向を尊重するということもあり、他市並みで考えたいと思っている。

文化財指定について

- 毎日新聞 今回の指定は何かきっかけがあったのか。
- 市長 所有者からの数年前に申請があった。釘を使っておらず、振動に合わせて揺れるという技術がすごいということである。
- 北陸工業 祭りに使うようだが、普段一般市民は見ることができるのか。
- 市長 格納庫に収められており見られない。祭りの夜に白い布で隠して神輿に神様を移し、それを担ぐ。
- 新潟日報 指定を機に、札の辻広場に展示するなどの考えはないか。
- 市長 指定を記念して展示するのは良い考えだと思うが、壊されたりするのは困るし、所有者の意向も確認する必要がある。

コメの生産調整制度終了後の取組について

- 新潟日報 制度終了後の方針を県が出すことになっているが、輸出米以外では、どのように水田営農に取り組むのか。
- 市長 県から情報が入っていない。一律で割り当ててよいのか、地域別に差をつけてよいのか、難しいと思う。6月には県が方針を出すと言っているが、まだ何の情報もない。市町村に意見を求めることもない。
- 新潟日報 一つには輸出用米を強化していきたいということか。
- 市長 今年は、コンビニで販売する分が12トン、外食産業に13トンくらいを予定している。この取組が脚光を浴びるのは、平成30年産米からではないか。国内で米価が下がったとしても、新潟産コシヒカリは世界的には一定の地位を保っているだろうから、それほど価格は下がらないと思う。それで輸出する側にも利幅が出てくるし、一定の水準で買い取ってもらえれば、農家にとっても良い。

羽越線高速化について

新潟日報 沿線自治体として、羽越線の強化をどう考えるか。

市長 我々にとっては、白新線の複線化が至上命題。羽越線高速化と羽越新幹線の2つの期成同盟会があるが、折に触れて白新線の複線化を訴えていく。

新潟日報 そのうえでミニ新幹線を走らせるなど、イメージしているものはあるか。

市長 日本海を通る新幹線は、酒田市や鶴岡市の皆さんにとっては、待ち望んでいるものであるから、大いに賛成であり、新発田を通過することは構わない。そのことに賛成もするし、協力もするが、我々が今望んでいるのは白新線の複線化である。

新潟日報 感触としてはどうか。

市長 乗降客数をカウントされるので、なかなか厳しい。だからと言って、やらなければなおのこと鉄道離れが進んでしまうかもしれない。